

# 実験報告書の書き方

学科 番 情報太郎

## 1. 目的

実験の目的を書く。

## 2. 方法

「**を測定するために、××を使用した[1]**」のように、実験に使用した装置等を記述する。「**の値を得るために、以下の測定を行った・・・**」のように、測定法を具体的に書く。

## 3. 結果

実験結果や測定した実測値を記述する。得られた結果を図表やグラフなどを使い、見やすくわかりやすい表現にする。図表を使う場合、「**の結果を図1に示す。**」、「**の結果、表1のような結果が得られた。**」などのように、それらの説明を文章中に必ず明記する。図表には図1、表1のような通し番号と、タイトルを付ける。数値を扱うときは、必ず単位を明記する。また、有効数字の桁数を統一する。

表1 表の例

時間(分)	A( )	B( )
0	100.0	100.0
2	70.0	98.0
4	55.5	90.0
6	44.0	80.5
8	43.0	77.0
10	40.0	75.5
12	36.5	75.0
14	35.0	72.0
16	31.5	70.0
18	29.0	69.5
20	27.0	68.0
22	26.0	66.0
24	24.5	64.0

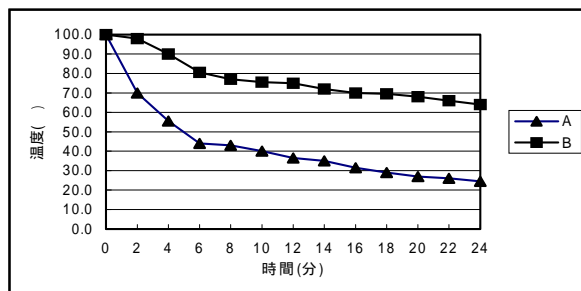


図1 グラフの例

## 4. 考察

実験結果を考察し、結論を導く。考察は、「**方法[2]と比較して、××方法が** **であると考え**る。」、「**実験で、××が有効であることが明らかになった。**」のように、自分の考えを述べる部分であり、決して感想を書いてはいけない。得られた結果の評価（実験値と理論値の比較、高精度のデータが得られた場合の理由、予期しないデータが得られた場合はその原因、実験条件を変えて測定した場合のデータ比較など）を明確に示し、結論を導く。

## 5. 結論

最終的な結論を示す。

## 6. 参考文献

引用・参考にした文献を下記のように書く。

[1] 鈴木花子：**の測定**，**出版**，1981。

[2] 山田太郎：**方法の評価**，**雑誌**，Vol.3，No.1，pp.25-60，2002. .